

まえがき

この報告書は、岡山大学文学部の第2期中期計画に組み入れられた、言語系のプロジェクト研究として、2009年度から2012年度までの4年間（2009年度は準備期間）にわたって実施された共同研究の成果を公表するものである。プロジェクトは単年度の申請であり、プロジェクト名やメンバーは一貫しないが、趣旨や中心的なメンバーに変更はないので、4年間の活動を一連のものとし、報告書のタイトルには「言語とコミュニケーション」という包括的な名称を用いることにした。

このプロジェクトの目的は以下のようである。

今日、コミュニケーションの研究と教育の重要性が再認識されている。語用論や会話分析、談話分析、機能主義言語学、文法化研究、言語接触論などのコミュニケーションの本質の解明をめざすアプローチが言語学でも大きな注目を集め、1つの潮流を形成するようになってきている。また、様々な地域や国から集まった学生たちの共存する大学は、コミュニケーションがリアルで切実な問題として意識化される場でもある。本プロジェクトでは、言語学・日本語学を中心としつつ、そこに様々なアプローチを融合させ、コミュニケーションの本質論と教育実践に関して総合的な探求を行う。

(2010年度研究計画書より)

前半の2年は各メンバーの研究発表を中心とし、後半の2年は国際セミナーやシンポジウムを開催して学外の研究者との研究交流を推進した。この報告書に収めた論文は、プロジェクトの中心的なメンバーが行った研究を発展させたものである。扱っているテーマはそれぞれ異なるが、それぞれが関心をもつ研究領域について明確な問題意識とオリジナルな知見を示しており、何らかの意味で、今後の言語研究の方法論的展開を示唆している。

最後に、セミナー・シンポジウムの講師の方々、サポートメンバーとして参加された方々をはじめ、このプロジェクト研究の推進にご協力くださったすべての方に感謝の意を表したい。

2014年7月

プロジェクト代表者 宮崎和人・栗林裕

活動の概要

研究発表会

<2009年度>

発表者：松本明子（岡山大学），京健治（岡山大学），宮崎和人（岡山大学），北村光二（岡山大学），栗林裕（岡山大学），堤良一（岡山大学）

<2010年度>

発表者：栗林裕（岡山大学），宮崎和人（岡山大学），片桐真澄（岡山大学），堤良一（岡山大学），京健治（岡山大学），金子真（岡山大学）

国際共同セミナー（2012年2月21日）

テーマ：コミュニケーションの中でつくられていくことば—言語の接触・文法の形成—

講演：包聯群（東京大学学術研究員），鄭相哲（韓国外国語大学）

報告：栗林裕（岡山大学），宮崎和人（岡山大学）

言語学セミナー（2012年6月5日）

テーマ：Genitive modifiers: ga-no conversion revisited

講師：柴谷方良（ライス大学）

講演会とシンポジウム（平成2013年3月18日）

テーマ：ことばと外界認知—日本語（方言）・英語・フランス語の構文からみえてくるもの—
趣旨説明：宮崎和人（岡山大学）

講演：渡邊淳也（筑波大学），早瀬尚子（大阪大学）

シンポジウム

司会：栗林裕（岡山大学）

パネリスト：渡邊淳也（筑波大学），早瀬尚子（大阪大学），金子真（岡山大学），片桐真澄（岡山大学）

報告：堤良一（岡山大学）